



シラバス参照

現代経済理論('26)

Theories of Contemporary Economics('26)

主任講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)、山本 崇広(放送大学客員准教授)

【講義概要】

現代という時間軸を、二度の大戦と大恐慌を経験した20世紀以後と幅広く捉えた上で、この100年余で起きた歴史上の出来事を振り返りながら、経済学・経済思想がどのように発展してきたのかを概説する。

【授業の目標】

本講義は、現代経済史の知識に加えて、経済学・経済思想の基本的な考え方を、主流派のみならず異端派も含めて、習得することを目標とする。

【履修上の留意点】

事前学習として、シラバスおよび印刷教材に記載されたキーワードを中心に、重要な用語の意味や背景を把握すること。事後学習としては、自身が最も関心を持ったテーマを中心に、講義で扱われた内容を自分なりに整理・要約すること。

各回のテーマと授業内容

第1回 現代経済の歴史と理論

19世紀の自由放任体制から、大恐慌と戦争を経てケインズ主義国家体制へ、そしてサッチャー・レーガン改革後の新自由主義体制へと、国家と資本主義の関係は時代ごとに変化してきた。初回の講義では、こうした現代の歴史を振り返りながら、その中で経済学・経済思想がどのような課題に直面してきたのかを、ケインズとハイエクのふたりに注目して概説する。

【キーワード】

自由主義、社会主義、ケインズ、ハイエク

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第2回 GDPという発明

GDP(国内総生産)という指標は、いつ、どのように生まれたのか。国民経済計算が生まれてきた経緯を明らかにするとともに、現代の政策論でGDPという統計数字が一人歩きしている現状を批判的に考察する。

【キーワード】

GDP、三面等価の原則、有効需要の原理、GDP指標の限界

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第3回 自由市場対計画経済

20世紀の市場社会は市場と国家、自由と計画のあいだで大きく揺れ動いてきた。20世紀初頭に繰り広げられた自由市場と計画経済をめぐる論争を振り返り、自由市場がどのような意味で望ましいのかを検討する。

【キーワード】

社会主義計算論争、オーストリア学派、価格メカニズム、ソフトな予算制約、発見手続きとしての競争

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第4回 戦後の国際経済秩序

国際経済をどのように運営したらよいか。第二次大戦後に発足したブレトンウッズ体制は、国際経済と国内経済の均衡を同時に達成しようとする野心的な試みだった。その背景について解説する。

【キーワード】

ブレトンウッズ協定、IMF=GATT体制、国際金融のトリレンマ、資本主義の多様性

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第5回 産業政策の是非

日本の経済発展は、アメリカ型の自由主義でもソ連型の社会主義でもない、独特な特徴を持つ。特に注目

メディア	テレビ
放送時間	2026年度【第2学期】(月曜) 08:15~09:00
単位認定試験提出方法	Web
単位認定試験期間	2027/01/17 09:00 ~ 2027/01/25 17:00
学習センター試験日/時間	2027/01/22 1時限 (09:45~10:35)
学部・院	教養学部
科目区分	('24カリ) コース科目 専門科目 社会と産業
科目コード	1539736
ナンバリング	310
単位数	2単位
単位認定試験平均点	
インターネット配信	あり
改訂回	なし
改訂内容	
履修制限	

されるのが政府の産業政策である。その歴史を振り返るとともに、現代における産業政策の有効性について考える。

【キーワード】

開発国家、産業政策、東アジアの奇跡、埋め込まれた自律性、経済ナショナリズム

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第6回 経済成長論の発展

1950年代半ばから、日本は高度経済成長期を迎える。経済成長をもたらすものは何か。また、持続的な成長を阻む要因とは何か。経済成長論の変遷を辿り、経済成長における知識の重要性について考える。

【キーワード】

シュンペーター、イノベーション、内生的経済成長論、成長会計、知識資本

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第7回 インフレーションの謎

1970年代、オイルショックを契機に激しいインフレを経験するなか、ケインズ経済学が退潮し、マネタリズムが台頭する。70年代の大インフレ期の歴史を振り返りながら、マネタリズムの功罪を検討する。

【キーワード】

マネタリズム、フィリップス曲線、貨幣数量説、自然失業率、合理的期待形成

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第8回 プラザ合意という転換点

1985年のプラザ合意は、日本経済の転換点だった。急速な円高の進行で産業の空洞化が進み、資産バブルにも拍車がかかった。この転換点の背景と、プラザ合意後のアジア経済の国際分業の深化について考える。

【キーワード】

プラザ合意、貯蓄投資残差、産業空洞化、雁行形態の産業発展

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第9回 高度消費社会のゆくえ

高度経済成長によって到来したのはバブル経済と高度消費社会であった。消費社会の高度化をいまどのように評価するべきだろうか。消費社会をめぐる論点を整理し、現代の消費低迷の原因を考える。

【キーワード】

ヴェブレン、ラチェット効果、依存効果、恒常所得仮説

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第10回 規制緩和と新自由主義

1980年代、サッチャー政権、レーガン政権によって規制緩和を中心とした改革が推し進められた。こうした改革に大きな影響を与えたとされるのが新自由主義である。ハイエクやフリードマンの思想に立ち返り、新自由主義の功罪を検討する。

【キーワード】

規制緩和、民営化、資本移動の自由、小さな政府、市場の失敗

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第11回 グローバル化の逆説

資本や労働力が国境を越えて活発に移動する時代になって、ナショナリズムは消えるどころか、むしろますます燃え上がっているように見える。それはなぜなのか。グローバル化と国家主権、民主主義の関係について考えてみたい。

【キーワード】

グローバル化、大分岐と大収斂、自由貿易と民主主義、グローバル経済のトリレンマ

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第12回 金融政策の実験

1999年のゼロ金利政策を経て、マイナス金利政策や量的・質的金融緩和など、非伝統的金融政策が試みられてきた。実験的な金融政策はなぜ導入されたのか、その理論的背景を解説するとともに、非伝統的金融政策の可能性と限界を考える。

【キーワード】

ゼロ金利、量的緩和政策、インフレ期待、ミンスキー

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第13回 格差社会は必然か

格差・不平等は、拡大と縮小を繰り返している。19世紀には拡大を続けたが、20世紀に入ると縮小に向かい、その後1980年代から再び拡大局面に入っている。この拡大と縮小のサイクルの背後にある要因を考える。

【キーワード】

クズネッツ仮説、ルイスの転換点、戦争と税制、メリトクラシー、機会の平等と結果の平等

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

第14回 長期停滞が意味するもの

バブル崩壊以降、「失われた30年」と呼ばれる経済停滞が続いている。停滞は景気循環の一時的な局面か、それとも資本主義の成熟の帰結か、成熟経済とはどのような経済か、近年の論争をもとに考える。

【キーワード】

自然利子率、長期停滞、定常経済、社会的共通資本

執筆担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

放送担当講師名: 山本 崇広(放送大学客員准教授)

第15回 21世紀の資本主義と国家

主要国の政府支出はこの50年で増え続け、累積赤字は今や第二次世界大戦期に匹敵する水準にある。グローバル化やデジタル化など社会変化に合わせて、政府に期待される役割も増え続けている。21世紀の国家と経済のあるべき関係を考える。

【キーワード】

ポピュリズム、現代貨幣理論、ブロックチェーン、中央銀行デジタル通貨、レジリエンス

執筆担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

放送担当講師名: 柴山 桂太(京都大学大学院准教授)

✕ 閉じる